

三菱電機（6503）企業分析レポート

【直近5年の業績推移】

決算期	売上高（百万円）	営業益（百万円）	経常益（百万円）	EPS（円）	配当金（円）	寸評
2022.03	4,476,758	252,051	279,693	95		回復基調
2023.03	5,003,694	262,352	292,179	101		増収維持
2024.03	5,257,914	328,525	365,853	135		利益急伸
2025.03	5,521,711	391,850	437,265	155		最高益更新
2026.03（予）	5,670,000	430,000	500,000	180		連続成長

【財務・キャッシュフロー概要】

決算期	営業CF（百万円）	投資CF（百万円）	財務CF（百万円）	現金残高（百万円）	自己資本比率（%）
2023.03	166,711	-148,533	-119,568	645,870	58.0
2024.03	415,479	-94,119	-240,118	765,384	60.6
2025.03	455,905	-191,750	-265,333	757,331	61.9

【財務コメント】営業CFは拡大基調にあり、本業からの資金創出力は強化されている。投資CFと財務CFの流出が続く一方でも、現金残高と自己資本比率は高水準を維持しており、財務体質は安定的である。

【会社概要】

三菱電機はFA、空調、ビル、電力・交通など社会インフラ領域に加え、防衛・宇宙やパワー半導体など幅広い事業を展開する総合電機大手である。国内外のインフラ更新需要を基盤に、成長分野への投資を進めている。

【歴史】

1921年創業。長年にわたり重電・産業機器で日本のインフラを支えてきた。近年は品質問題を契機にガバナンス改革と事業構造の見直しを推進し、収益性改善と成長領域の強化に取り組んでいる。

【立ち位置】

総合電機の中でも、FA・空調・インフラといった堅実な需要領域に強く、防衛・宇宙など国策との親和性も高い。景気循環の影響は受けるが、分散された事業ポートフォリオにより安定性を持つ立ち位置にある。

【見解】

中長期的には、インフラ更新、防衛需要、産業の省人化投資を背景に、安定成長が期待できる企業である。一方で、事業領域が広いがゆえに収益改善のスピードは限定的となりやすく、市況変動やコスト増で利益が振れやすい点には注意が必要である。

【株価・市場情報】(2026年1月8日)

株価(終値・円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り(%)	信用倍率(倍)	時価総額(億円)
4,711	26.05	2.38	1.17		99,600

【同業他社比較】

銘柄名	株価(円)	PER(倍)	PBR(倍)	時価総額(億円)	特徴
日立製作所	5,088	30.6	3.75	230,000	インフラ・IT主導、海外注力
パナソニックHD	2,008	18.03	0.98	49,300	家電・電池、構造改革継続
NEC	5,642		3.82	77,000	通信・IT、顔認証など高付加価値領域
富士通	4,388	19.75	3.90	90,900	ITサービス強い、公共・金融に優位
ソニーG	3,930	22.32	3.05	240,000	エンタメ+デバイス、画像センサーが柱

【投資成功シナリオ】

防衛・宇宙とインフラ更新の需要が継続し、FA・空調も底堅く推移する。ガバナンス改革の定着で市場評価が改善し、利益率の段階的上昇が確認されることで安定成長株として評価が切り上がる展開。

【投資失敗シナリオ】

設備投資の減速やコスト上昇でFA・空調の利益率が低下し、防衛・インフラも案件採算の悪化が表面化する。収益の伸びが鈍化すると大型株としての評価が重くなり、株価がレンジに留まる展開。

【メモ】

2026.03予は增收増益でEPSも伸長見込み。次に見る論点はセグメント別の利益率、受注残の質、配当方針の継続性。